

令和元年度 調布市立若葉学校 学校経営計画

学校教育目標	「かしこく やさしく たくましく」 ◎しっかり考え、進んで学ぶ子 ・思いやりのある子 ・明るくたくましい子
目指す学校像(ビジョン)	【目指す学校像】 「子どものための学校」を基本に据え、子どもたちが学び育ち合う学校、教職員も教育の専門家として学び育ち合う学校、保護者・地域も教育活動に協力・参画して学び育ち合う学校づくりを推進して、協働で「花と笑顔のあふれる学校」を目指す。
【目指す子ども像】	「進んで学び、自ら表現できる子ども（表現力）」 「優しい心を持ち、自分も他人も大切にできる子ども（協働する力）」 「進んであいさつするとともに、心身を鍛える子ども（健康増進力）」
【目指す教師像】	「使命感（Sense of Mission）・行動力（Action）・情熱（Passion）を持ち、子ども第一主義を貫く教師」

本校の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は明るく素直で、学習や行事などに意欲的に取り組む。6年間一貫指導による基本的な生活習慣の定着を図るとともに学力・体力の向上を図っていく。 ・経験年数の浅い教員が多いため、OJTを活用して、組織的に指導力向上を図る必要がある。 ・保護者・地域は学校の教育活動に協力的である。また地域の諸団体の活動は活発である。「地域学校協働本部」を中心に、双方向のネットワークを構築していく。
-----------------	--

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標 ※ 数値目標が可能な項目について設定する
学力向上	進んで学び、自ら表現できる児童を育成する。 【表現力の育成】	国語科において、自分の考えを表現する力を育成する。	○国語科において、主体的・対話的な学びの手だてを工夫し、表現力（書くこと・話すこと）を高める授業改善を継続する。 ○国語科で培った力を、各教科・領域においても生かし、対話を通して考えを見直したり深めたりして、考えたことを効果的に伝える力を伸ばす実践を行う。	○保護者アンケートにおいて、学習内容の理解に関する肯定的評価90%以上を目指す。
		算数科において、筋道を立てて考え、様々な表現方法を用いて自分の考えを表現する力を育成する。	○全国や都の学力調査等を分析して、課題を明確化する。 ○算数科において、問題解決型の授業を行い、思考力・表現力を育てる授業改善を行う。 ○低学年ではT T指導、3年生以上では習熟度別指導を行い一人一人に基礎・基本の定着を図る。	
健全育成	優しい心を持ち、自分も他人も大切にできる児童を育成する。 【協働する力の育成】	児童の自尊感情や自己肯定感を高める教育の充実を図る。	○道徳科において、研究主題を「自分の思いや考えを表現し、互いに認め合う児童の育成」とし、校内研究を推進する。講演会・示範授業・4回の研究授業を通し、授業改善を行う。 ○自尊感情測定尺度（都版）を活用して個の実態を把握し一人一人のよさを伸ばす指導を行う。 ○特別支援教室専門員やスクールカウンセラー等を活用し、個に応じた支援を行う。	○自尊感情測定尺度（東京都版）を用いた調査において、個々の児童の実態を捉えるとともに東京都の平均値を超すことを目指す。 ○保護者アンケートにおいて、安全・安心に関する肯定的評価90%以上を目指す。
		安全・安心な教育環境を整備する。	○アレルギー対応マニュアルの周知徹底と確実な実施を行い正しい知識を児童に身に付けさせる。 ○いじめの未然防止・早期発見のために、児童アンケート等を実施し、組織的な対応を行う。 ○定期的な安全点検や安全指導を行うとともに、様々な状況を想定した避難訓練の実施、防災教育の充実を図る。 ○生活指導の基本となる「わかばっ子」を活用し、「6年間一貫指導」を行う。	
健康・体力づくり	進んで挨拶するとともに、心身を鍛える児童を育成する。 【健康増進力の育成】	オリンピック・パラリンピック教育を推進する。	○オリンピックなどの講師を招聘したり、パラスポーツ観戦を行ったりしながら、オリンピック・パラリンピック教育を計画的に推進し、「ボランティアマインド」「障害者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」の五つの資質の育成に努める。	○保護者アンケートにおいて、健康・体力増進に関する肯定的評価90%以上を目指す。
		児童の健康保持・体力増進への意欲を高め、基本的な生活習慣の定着を図る。	○タグラグビー・サッカーの講師を招聘して、体育等の授業の充実を図るとともにエンジョイスポーツなどの取組により、運動の日常化を図る。 ○東京都学校歯科保健推進校として、学校歯科医と連携し、「虫歯の予防」や「咀嚼力の向上」に対する実践力を育成する。8月には、学校保健委員会で保護者に啓発を図るとともに、2月には研究成果を発表する。	
保護者・地域との連携	地域とともにある学校を推進する。	地域学校協働本部の活動を充実させ、地域の環境や、保護者・地域の教育力を教育活動に生かす。	○地域学校協働本部の地域連絡会を6月に開催し、1年間を見据えた活動の連絡・調整を行い、3学期には次年度の計画を立てる。 ○「サマーチャレンジわかば」を5日間実施し児童が保護者・地域の方と交流して体験的に学ぶ活動を充実させる。 ○カリキュラム・マネジメントを生かし、保護者・地域の人材を活用した体験学習を充実させる。 ○若葉の杜音楽会、夏祭り、新春お茶会、地域運動会などの地域行事には、教職員も参加し、児童・保護者・地域の方との連携・交流を進める。	○保護者アンケートにおいて、学校・家庭・地域との連携に関する肯定的評価90%以上を目指す。
		幼保小・小中など、校種間連携を推進するとともに、学校だよりやホームページを活用して学校情報を適時に分かりやすく発信する。	○定期的に交流の機会をもって情報交換を行い、幼保小・小中の校種間連携を深めて、円滑な接続を図る。 ○学校だより等で教育活動の様子を発信し、保護者・地域の協力を得る。また、学校ホームページを適時性のあるものへ改善し、充実させる。	
特色ある教育活動	読書活動などを通して児童に豊かな感性を育み、確かな学力の基礎を醸成する。	「保護者読み聞かせ」など、読書活動を充実させて児童に豊かな感性を育む。	○6月の読書月間、10月の読書旬間の取組や、「おはよう読書」「保護者読み聞かせ」を充実させ、読書習慣の定着を図る。 ○カリキュラム・マネジメントを活用し、国語科と読書活動を関連させ、言語活動の充実を図る。	○保護者アンケートにおいて、読書活動に関する肯定的評価90%以上を目指す。
		家庭学習を定着させるとともに、個に応じた指導を行い、児童の基礎・基本の定着、学力の向上を図る。	○調和小学校のがわ学級と連携し、校内通級教室を充実させる。 ○家庭学習（学年×10分）について、保護者の協力を図ながら習慣化を図る。 ○地域の教育力を活用した、2・3・4年生の放課後算数補習教室（にこにこ算数教室）を継続・充実させる。	